

■第19回日本緩和医療薬学会年会 一般演題リスト【口頭発表】 発表時間：発表9分、質疑応答3分、合計12分

日付	会場・時間	セッション名	座長	座長所属機関名	発表時間	演題番号	筆頭演者氏名	筆頭演者所属機関名	演題名
5月30日 (土)	第9会場 和歌山県立医科大学 薬学部 実習室301 10:00-11:36	一般口頭発表1 疼痛マネジメント・がん 支持療法	江頭 伸昭 高橋 智恵子	和歌山県立医科大学薬学部 医療薬剤学 大阪医科薬科大学病院 薬剤部	10:00-10:12	3001-01	藤森 央基	君津中央病院 医療技術局 薬剤科	疼痛管理に難渋した悪性腫瘍症候群の一例
					10:12-10:24	3001-02	相良 克海	吉川中央総合病院 薬剤科	多職種連携により難治性疼痛の緩和を行い在宅復帰に至った終末期がん患者の一例
					10:24-10:36	3001-03	荘山 咲智子	順天堂大学医学部附属浦安病院	オピオイド誘発性便秘により鎮痛治療の継続が困難であった血液透析患者に麻子仁丸が奏効した2症例
					10:36-10:48	3001-04	足立 萌	静岡赤十字病院 薬剤部	ケミカルコーピングによりオピオイドタイトレーションに難渋しながらも施設退院した一例
					10:48-11:00	3001-05	田中 こずえ	野崎徳洲会病院 薬剤部	症状緩和の早期改善を目的とした薬剤師主体による緩和ケアチーム介入体制の構築とその有用性
					11:00-11:12	3001-06	吉本 鉄介	JCHO中京病院	重篤な上肢と舌の持続性過伸展(Outstretched)が術後突発したフェンタニル離脱症候群の1例：分子構造学による先行モルヒネ退薬症候との比較理解
					11:12-11:24	3001-07	沢 仁美	川西市立総合医療センター 薬剤科	抗EGFR抗体薬投与中の低マグネシウム血症に対する市販サプリメント併用の有効性：2症例報告
					11:24-11:36	3001-08	後藤 敬也	磐田市立総合病院 薬剤部	薬剤師による爪障害アピアランスケア 薬剤指導を通じた継続的なフォローの重要性
	第8会場 和歌山県立医科大学 薬学部 中講義室304 13:45-14:57	一般口頭発表2 オピオイド鎮痛薬と その副作用 (優秀賞エントリー)	佐野 元彦 森 理保	星薬科大学 実務教育研究部門 徳島市民病院 薬剤部	13:45-13:57	3002-09	加藤 真由美	社会医療法人若弘会 若草第一病院 薬剤部	4剤併用療法の早期奏効に伴う相対的オピオイド過量に対しオピオイドタイトレーションを要した多発性骨髄腫
					13:57-14:09	3002-10	鈴木 寛	株式会社やまうち薬局	腎機能はヒドロモルフォン投与量にどこまで影響するのか？—がん疼痛患者の実臨床データを用いた後方視的研究—
					14:09-14:21	3002-11	佐藤 哲観	静岡県立静岡がんセンター 緩和医療科／緩和ケアチーム	悪性腫瘍に起因する脳神経叢障害に伴う難治性疼痛に対するメサドンの投与経験～23例の後方視的検討～
					14:21-14:33	3002-12	小林 真也	レジーブ株式会社 トマト調剤薬局／医療法人若葉会近藤内科病院 薬剤科	腹部膨満感を伴うがん性疼痛に対する予防的レスキューの有効性と安全性の後方視的検討
					14:33-14:45	3002-13	宮本 朗佳	兵庫医大 薬 臨床薬学	オキシコドン使用開始後のせん妄発症に対する便秘の影響：診療録および医療ビッグデータを用いた後ろ向き解析
					14:45-14:57	3002-14	木下 史一	順天堂大学医学部附属静岡病院	入院患者の転倒事例から考えるオピオイドを含めたFRIDs多剤併用と薬剤師介入の可能性
					13:45-13:57	3003-15	山田 夏葵	和歌山県立医科大学薬学部 生体機能解析学研究室	様々な痛み伝達に関わる脊髄後角神経の機能解析
					13:57-14:09	3003-16	池田 莉琉	星薬科大学 薬理学研究室	膝がん悪液質進行期における視床下部摂食回路の反応性とアナモレリン治療効果の検討
	第9会場 和歌山県立医科大学 薬学部 実習室301 13:45-14:57	一般口頭発表3 緩和医療の基礎研究 (優秀賞エントリー)	溝口 広一 中本 賀寿夫	東北医科薬科大学 機能形態学 神戸学院大学薬学部 臨床薬学部門 臨床薬学研究室	14:09-14:21	3003-17	大野 鈴音	東京理科大学 薬学部 薬学科 疾患薬理学研究室	がん悪液質に先行する概日リズム破綻と身体活動リズムへの関与
					14:21-14:33	3003-18	椋本 真生	和歌山県立医科大学 薬学部 薬学科	高感度スーパーオキシド検出法による微量血液中での好中球数モニタリング技術の開発
					14:33-14:45	3003-19	飯塚 慎	星薬科大学 薬理学研究室／国立がん研究センター 研究所 がん患者病態生理研究ユニット	緩和医療における次世代型薬物療法の提案：知覚神経由来因子制御を指標とした鎮痛薬選択の有用性
					14:45-14:57	3003-20	田中 怜	湘南医療大学 薬学部 医療薬学科 薬物治療学研究室	内服困難な患者にも使用可能な全身作用型ミロガバリン外用剤の開発：各種薬剤による皮膚浸透性の比較検討
					15:03-15:15	3004-21	石坂 峻	堺市立総合医療センター 薬剤部	超高用量オピオイドにより痛覚過敏と精神依存的行動を呈した胸腺癌患者に対し、多角的なアプローチにより疼痛コントロールできた一例
					15:15-15:27	3004-22	高橋 早織	医療法人徳洲会 東京西徳洲会病院 薬剤部／緩和ケアチーム	フェンタニルクエン酸塩付剤の中断により離脱症状を来した一例
					15:27-15:39	3004-23	知念 ほのか	医療法人徳洲会 中部徳洲会病院 薬剤部	高用量のオピオイド使用によりオピオイド誘発性痛覚過敏(OIH)を発症した1例
					15:39-15:51	3004-24	田中 宏賢	JA長野厚生連 佐久総合病院 佐久医療センター 薬剤部／小海分院 薬剤部	Buerger病による難治性慢性疼痛管理に難渋した一症例
	第8会場 和歌山県立医科大学 薬学部 中講義室304 15:03-16:15	一般口頭発表4 疼痛マネジメント (優秀賞エントリー)	萬谷 摩美子 長谷 圭悟	愛和会愛和病院 薬局 八尾市立病院 がん診療支援室	15:51-16:03	3004-25	杉田 望月	国立病院機構 石川病院 薬剤科	人工呼吸器管理の終末期患者に対するオピオイド過量投与に薬剤師として対応した1症例
					16:03-16:15	3004-26	中川 隼一	東京慈恵会医科大学附属柏病院 薬剤部	フレガバリンおよびミロガバリンの維持用量への到達率に関する実態調査
					15:03-15:15	3005-27	金安 真由子	兵庫県立がんセンター 薬剤部	当院における終末期がん患者のせん妄に対するプロナセリン経皮吸収剤の使用実態調査について
					15:15-15:27	3005-28	安藤 寛子	総合病院土浦協同病院	多職種協働によるせん妄・不眠時薬物療法の院内標準化 — フローチャート作成の取り組み —
					15:27-15:39	3005-29	五十嵐 隆志	国立がん研究センター東病院 薬剤部	がん患者のせん妄に対するプロナセリン貼付剤の安全性に関する単施設後方視的調査
					15:39-15:51	3005-30	大信 紀明	地域医療振興協会 石岡第一病院	非がん終末期における抗不安薬・鎮静薬の新規処方パターンと身体的拘束の実態—がん患者との後方視的比較検討—
					15:51-16:03	3005-31	大田 歩	国家公務員共済組合連合会 斗南病院 薬剤部	終末期がん患者の倦怠感に対するヒドロキシジン塩酸塩注射液による間欠的鎮静の効果およびせん妄発現リスクの検討
					16:03-16:15	3005-32	畠山 愛珠	順天堂大学医学部附属浦安病院	Enfortumab Vedotinによる皮膚障害に対してグリチルリチン・グリシン・システイン配合注射液が有効であった1例
	第9会場 和歌山県立医科大学 薬学部 実習室301 15:03-16:27	一般口頭発表5 がん患者の症状マネジ メント (優秀賞エントリー)	龍 恵美 宮本 康敬	長崎大学病院 薬剤部 浜松医療センター 薬剤科	16:15-16:27	3005-33	座間 美沙	東京慈恵会医科大学附属柏病院 薬剤部	頭頸部癌患者における化学放射線療法に伴う有害事象対策への取り組み
					16:32-16:44	3006-34	近岡 伸悟	富山大学附属病院 薬剤部	内服困難となりメサドンを中止した膵癌患者に対しトラマール注射併用で在宅療養が可能となった1例
					16:44-16:56	3006-35	松浦 友美	総合病院松江生協病院 薬剤部	嚥下機能低下患者に対しアレクニブの経管投与を導入し在宅移行を支援した一例
					16:56-17:08	3006-36	土屋 貴	地方独立行政法人福岡市立病院機構 福岡市立こども病院 薬剤部／日本緩和医療薬学会 先端学術緩和医療薬学タスクフォース	終末期患者の在宅支援に関するアンケート調査～退院前カンファレンスにおける薬業連携を妨げる要因の報告と今後の取り組みへの提案～
					17:08-17:20	3006-37	平野 明徳	地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立駒込病院	医療用麻薬管理業務の効率化の取り組み(麻薬管理支援システムによる注射用麻薬補助薄廃止の試み)【第2報】
					17:20-17:32	3006-38	古川 洗平	国立がん研究センター東病院 薬剤部	緩和ケアチームと緩和ケア病棟における薬剤師レジデントの介入とその評価に関する観察研究
					17:32-17:44	3006-39	村田 優太	国立がん研究センター東病院 薬剤部	医療用麻薬の「患者向医薬品ガイド」および「くすりのしおり」における記載内容に関する実態調査
					17:44-17:56	3006-40	中島 誠	鹿児島市医師会病院 薬剤部／岐阜薬科大学 地域医療実践薬学	オピオイド注射剤の院内フォーミュラ導入を目的とした緩和ケア病棟における使用状況調査と導入に伴う経済効果の試算
5月31日 (日)	第9会場 和歌山県立医科大学 薬学部 実習室301 9:00-10:24	一般口頭発表7 在宅緩和ケア (優秀賞エントリー)	前田 桂吾 白石 丈也	日本調剤株式会社 在宅医療部 (有)メディックス白石けや木薬局	9:00-9:12	3107-41	高塚 雄太	(有)アド調剤薬局 西部薬局	癌末期在宅患者に対する注射剤を用いた持続鎮痛及び調節型鎮静に在宅薬剤師が介入した症例及び今後の在宅医療の課題
					9:12-9:24	3107-42	山本 侑記	一般社団法人泉州メディカ 在宅医療チーム	積極的治療を終了した終末期がん患者の海外旅行支援
					9:24-9:36	3107-43	福島 知美	福元薬局	在宅緩和医療において当薬局で介入した一症例 一病院から在宅PCAポンプをつなぐ
					9:36-9:48	3107-44	石田 理香	かくの木野火止薬局	地域における在宅緩和ケア事例の共有と薬剤師の役割—朝霞地区在宅緩和ケア推進ネットワークの症例検討会を中心に—
					9:48-10:00	3107-45	島田 菜巳	株式会社はーとふる ミヤケ薬局	在宅終末期医療における病院と在宅の薬剤師対応に関する課題 — 薬局薬剤師の実務経験から考える在宅医療への関与—
					10:00-10:12	3107-46	前園 崇仁	有限会社トゥーアローズ 大手町調剤薬局	在宅医療の現場から見るCGAの実践～困難事例における薬剤師の役割～
					10:12-10:24	3107-47	森 満希子	株式会社やまうち薬局	終末期心不全在宅医療において薬剤師が果たすべき役割：在宅ドパミン持続静注を要した一例
					10:30-10:42	3108-48	武田 芙蓉	北海道大学病院 薬剤部	北海道大学病院小児緩和ケアチームにおける薬剤師の役割
	10:42-10:54	3108-49	赤星 一恵	大分岡病院 薬剤部	急性期病院から在宅医療へ、シームレスな緩和医療の提供に向けて薬剤師が薬剤調整に関与した一症例				
	10:54-11:06	3108-50	掛谷 純子	前原病院 薬剤課	緩和ケア病棟における病棟薬剤業務導入の実践—療養病棟・地域包括病棟を併設する体制下での役割構築と課題—				
	11:06-11:18	3108-51	上田 真隆	市立奈良病院 薬剤室	退院前カンファレンスを通じた円滑な薬業連携を目指す取り組み				
	11:18-11:30	3108-52	畑中 真理	宮崎大学医学部附属病院 薬剤部	シームレスな緩和ケアを支える薬剤管理サマリ：薬業連携の実践と評価				
	11:30-11:42	3108-53	林 隼輔	東京慈恵会医科大学附属柏病院 薬剤部	病院薬剤師が在宅医療現場の見学で得られた成果				
	11:42-11:54	3108-54	満尾 明恵	鹿児島大学病院 薬剤部	周術期担当薬剤師と緩和ケアチームの協働で周術期のオピオイド離脱症候群回避に寄与できた一症例				
	11:54-12:06	3108-55	大内 友季江	一般財団法人やまとコミュニティホスピタル光ヶ丘スベルマン病院	外来緩和ケアにおける薬剤師連携により在宅療養の継続に寄与できた一例				